

## V. 特記事項

### 1. 京都国際平和構築センター

本学では、「藝術立国」「京都文藝復興」等の理念を掲げ、芸術文化の活用による国際平和構築に向けた活動をおこなっている。国際連合創設 75 周年記念事業「芸術文化学術フォーラム 2020 in 京都」の本学での開催を機に、平和構築ならびに持続可能な開発目標(SDGs)の達成を推進するための国際協力を行うことを目的として、元国連事務次長、国連事務総長特別代表、大使などを評議員として迎え、本学の附置機関として「京都国際平和構築センター」を令和 2 (2020) 年度に設置した。

令和 3 (2021) 年度の元東ティモール共和国大統領兼首相への名誉博士号の授与や国連事務総長特使など国連関係者との会談をはじめ、令和 5 (2023) 年度には、国際社会におけるプレゼンス向上に向けて、国連大学学長、国連活動支援担当事務次長、国連ボランティア計画関係者など国連機関要職者との会議をセンター主催で実施し、芸術文化の活用による国際平和構築について議論を行った。令和 4 (2022) 年度にはスイス・ジュネーブで実施された国連システム学術評議会の年次総会へ出席し、アジア太平洋地域における活動について協力連携協定を締結した。その他、本センター主催による公開講座も実施し、教育による国際平和構築の推進を図っている。

### 2. 通学課程及び通信教育課程、併設校等との教育連携

通学課程では、学部共通科目の芸術教養科目において、通信教育課程のウェブスクーリング科目を「芸術史講義」として開講している。この科目は単位認定・卒業要件への算入ができる仕組みとなっており、1,174 人が受講した。

芸術学部のこども芸術学科は保育士資格と幼稚園教諭一種免許状を取得することができることから、学生の保育実習において併設校の「認可保育園こども芸術大学」で実習生を受入れている。保育実習前の事前授業で学生が保育園を訪ね、園児や保育士と交流するなどの教育連携を行い、延べ 90 人の学生と、3 歳から 5 歳までの園児 47 人とが交流した。

芸術研究科では、外国人留学生向けの日本語科目「学術基礎」の科目設計に併設校の京都文化日本語学校の教員が参画し、留学生 98 人が受講している。

通信教育課程では、外国人学習者を対象に、専門的な学びを深めるとともに日本語能力の向上を目的とした「外国人学習生プログラム」を併設校の京都文化日本語学校と連携し開発した。7 科目の日本語科目を開講し 43 人が受講した。

京都芸術大学附属高等学校では、高校 2 年生及び 3 年生を対象に、大学の教員が授業を担当する大学連携科目を夏期集中授業として開講している。令和 5 (2023) 年度は「プロフェッショナル科目 I ~ XI」の 11 科目を開講し 211 人が受講した。知識やスキルを学ぶだけでなく、専門分野の仕事の話聞くことで自分の将来の進路を考えるきっかけにもなることから、出席率も平均よりも高く、生徒からの評価も高い授業となっている。

このように、学園が設置する大学(通学課程及び通信教育課程)、専門学校、日本語学校、認可保育園、附属高校のそれぞれが積み上げて来た教育ノウハウを活用し、学校の枠を超えて教育活動の質的向上に取り組んでいる。